

# 平成 30 年度 地域ケアプラザ事業計画書

## 1 施設名

横浜市さつきが丘地域ケアプラザ

## 2 事業計画

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との共通部分

### 1 全事業共通

#### 地域の現状と課題について

青葉台連合自治会・青葉台地区福祉協議会のエリアを青葉台地域ケアプラザと当ケアプラザが協力して地域の課題等について共有している。  
この地域は、以前から自治会や社会福祉協議会、民生委員児童委員、老人会など様々な団体が活発に行われており、共通する活動については2つのケアプラザが日頃から連携を取り情報共有を行っている。  
担当エリアの高齢化率は平成29年9月30日現在20.0%となっている。高齢化が年々進んでいくエリアのため、介護予防や閉じこもり防止などに役立つプログラムをケアプラザ内で開催すると共に、地域にも出向いて活動を行っていく。また、このエリアには小学校が2校、中学校が1校と児童数も他のエリアよりも多い。将来に向けて、学校との連携も活発に行うと共に、地域に住む子育て中の親や未就学児童を対象にした活動も行い、次世代に向けての継承者を育てていく。デイサービスなど高齢者向けの施設であるという印象が地域に定着しがちであるが、ファミリー層や子供たちにも目を向け参加できる場づくりと全世代の為の地域の活動の場である事を継続的に地域にアピールしていく事が出来る仕組みを構築していく。

#### (1)相談（高齢者・子ども・障害者分野等の情報提供）

##### [高齢者]

包括3職種が区役所と連携をとり、どのような相談にも継続して対応できるよう、分科会や連絡会、包括カンファレンス、その他研修会などへ参加し、スキルアップを図る。また、虐待や成年後見人、認知症などの周知や啓発活動も積極的に行う。

##### [子ども]

区の子ども家庭支援課や子育て支援拠点「ラフル」との連携を図り、子育てに関する情報の提供を行う。相談内容に応じて専門機関や担当者へ引継ぎ、ワンストップの相談体制を有効かつ迅速に活用する。障がい・子どもに関する専門機関とも（教育機関、地域活動ホーム、生活支援センター）連携し、きめ細かく個人のニーズに対応できる体制づくりを行う。

##### [障害者]

地域活動ホーム「ステップ」や青葉区生活支援センター「ほっとサロン青葉」  
青葉区障がい者後見的支援室「ほっぷ」横浜市中途障害者地域活動センター「青葉の風」などと連携し、速やかに関係機関につなげるようにする。

## (2) 各事業の連携

前年度に引き続き、地域包括支援センターと地域活動交流部門が連携し、講座毎にケアプラザの機能などについて啓蒙していく。新たな取り組みとして、「さつき地域劇団」を立ち上げる。寸劇を通して地域住民に親しみやすい権利擁護講座になるような取り組みを行う。

各事業を通して、包括・地域交流・介護保険事業（居宅介護支援・通所介護）の連携により、個別の課題、地域の課題について、定例会議の場で情報共有をしていく。

明らかとなった課題を抽出し、支援に結び付けていく。

住民の健康状態や一人暮らしの方の生活状況を会話の中で情報収集していく。長期欠席者などには専門職から適宜迅速な対応を行っていく。

## (3) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

地域包括支援センター部門・地域活動交流部門・通所介護部門・居宅介護支援部門とも、それぞれの基準に則り、資格及び人員を配置する。

また、生活支援コーディネーターも包括職として、配置されて3年目に入るが、今年度も重点的に研修を行っていく。他の職員についても、育成は一人一人がプロ（ケアプラザに配属された専門職）として自覚をもち、職務を遂行できるように、常勤非常勤を問わず、法人内研修や外部研修に積極的に参加し、個人のレベルアップと各セクション、強いてはケアプラザ全体の質の向上を図っていく。また外部研修に参加した職員には報告を義務付け、所内研修での情報の共有化を図る。法人内研修に於いても、外部研修同様に、所内で情報共有を行っていく。特に新任の職員には、すぐ実践で役立つ基礎知識や実務に関する外部研修を受講させる。

法人内では、毎年4月に年度入職者を対象に3日間の新人研修を行っている。中間管理職、管理職を対象にした研修も年間計画に則って実施され、該当職員は積極的に参加できる環境を作っている。

公正中立性の確保については、公正中立な立場に立った地域包括支援センターが介護予防支援を行う際のケアプラン作成における委託に関しての中立性の確保を目指し、運営協議会に於いて、委託状況の報告を行う。また、地域の介護保険事業所に於いてもマネジメントを行うための公平中立性について啓蒙活動を行っていく。

## (4) 地域福祉保健のネットワーク構築

青葉台地区社会福祉協議会理事会や、かがやく青葉台推進会議に出席し、地域の関連団体や機関との情報交換を積極的に行う。また、包括エリア内の学校や、地域の行事にも積極的に参加し、地域諸団体との交流や顔の見える関係づくりを行っていく。

地域福祉保健計画地区別計画の推進では、3ヶ月に1回支えあいネットワーク（平成29年度から協議体としての位置づけ）を開催し、地域の代表者や行政と共に、情報共有と課題解決に向けての活動を行っている。また、地域の様々な行事に参加し顔の見える関係作りにも努めている。

## (5) 区行政との協働

青葉区地域福祉保健計画第3期目標を踏まえ、ケアプラザが地域の福祉保健の拠点施設としての役割を認識し、活動及び地域支援を行っていく。また、区役所、区社会福祉協議会と連携し、子供から高齢者まで幅広い年齢層に対しケアプラザに興味を持っていただき、活動に参加いただけるよう、ケアプラザ全体として事業に取り組んでいく。

## 2 地域活動交流事業

### (1) 自主企画事業

地域のニーズを把握し、地域福祉のために新たな取り組みを行う。

高齢者の生きがいや健康、認知症予防に重点をおき仲間づくりにもつなげる講座開設。

育児ノイローゼや虐待を未然に防ぐため親子の居場所づくりを拡げる。講座には地域住民の見守りの目が向けられるように子育て支援ボランティアを育成する。小中学生が集える食育講座や自学習に取り組める居場所の提供を行う。また、放課後開催の子ども食堂と連携しながら「放課後支援」プログラムの導入を試みる。その活動に参加いただけるボランティアを育成する。

多世代交流を深め近所づきあいを活性化できるような顔の見える関係づくりにつながる講座を継続しておこなっていく。

青葉区社協、日本赤十字社との共催で「防災」や「救命」に備える資格取得講座を地域の自治会など幅広く周知、啓蒙を行う

区やラフールと連携し地域の子育て支援につながる継続した活動を行うと同時にケアプラザを周知し、地域の相談窓口の役割を理解してもらうため、講座を通じて都度啓蒙を行う。

包括との連携し「健康に関する講座」「認知症」「ボランティア育成」の講座を定期的に関講する。包括の権利擁護講座を広く、わかりやすく啓蒙するために「寸劇」のボランティアを育成し、子どもからおとなまでに必要な情報を発信する機会を作る。小中学校向けには、引き続き認知症の理解を深められるような取り組みを行っていく。

地域とケアプラザを結ぶ中間地点に多世代交流カフェを展開し、運営を通して新しい地域の方やボランティア、近隣住民と新しいパイプを作る。

### (2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

貸館の空き状況を常に更新し、最新情報を見やすく掲示する。また電話での空き状況の問合せに丁寧に応じる。

自主・福祉保健活動団体の高齢化による会員減少を防ぐため、講座や企画の提案、会の紹介文を作成し、地域に発信する。貸館全般の稼働率が向上する工夫を継続して行う。特に土・日・祝日や夜間帯利用の円滑化を図る。

### (3) ボランティアの育成及びコーディネート

平成 30 年度は子育ての場にボランティアを増やす取り組みを行う。「いきいきセミナー」修了生の定期的なボランティア活動のマネジメントと平成 30 年度に育成を行った団体の活動が活発化するようフォローする。年間を通じて広報紙地域に向けてのボランティア活動への呼びかけを弛みなく行い、興味を持たれた方には一人からでも面談を行う。区社協とも連携しながら、デイサービス、秋祭り、福祉まつりや子育て支援などのボランティアコーディネートも行う。

その他「支えあいネットワーク」の活動を通じてボランティア発掘・事業所ニーズや地域ニーズとのマッチングを継続して行う。

### (4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

地域の連合自治会、学校などの社会資源を把握し、諸活動への参画、定期的な情報交換を努める。小中学校コーディネーターとの横の繋がりも深め情報交換を行う

生活支援コーディネーターと協働し、広報紙「ひろば」と館内掲示板を通じて特集記事を設け「団体紹介コーナー」に記事を掲載し活動を周知し、同時に会員募集し活性化させる。

館内閲覧コーナーに「利用団体活動紹介」ファイルを置き、各募集要項に応じた新規人材獲得が随時できるような工夫を行う。

毎月広報紙「ひろば」を刊行し、ケアプラザの事業カレンダーを掲載。ケアプラザの活動や介護・福祉の情報も啓蒙。協力医の「健康コラム」を定期的に発信していく。

区報を利用しケアプラザの周知を行う。  
活動後、ブログ更新はリアルタイムに行い、各団体の活動の様子から理解や興味を深める。タウンニュースやイツコムの取材も活用する。  
エリアの幼保、小中学校へは余暇の前に「学校ひろば」を発行し、情報の提供を行う。

### 3 生活支援体制整備事業

#### (1) 事業実施体制

生活支援体制を整備していくため、ケアプラザ内での連携、連合自治会エリア内にあるケアプラザとの連携、ケアプラザエリア内のコミュニティハウスや自治会館、老人会など活動団体との連携により、協議体の開催に向けて実施体制を整備していく。

#### (2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

- ①生活支援サービスや生活支援コーディネーターについてより多くの住民の方には知っていただけるよう、引き続き広報活動を実施する。
- ②各地区で協議体が開催され、住民が自主的に見守りや支え合い活動を行えるよう、見守りマップや各種データ、アンケート調査等の情報を提供する。
- ③ボランティアや地域活動に参加していただける人材の掘り起しを行っていくとともに、活動の場とのマッチングやコーディネートしていくシステムを引き続き構築していく。
- ④生活支援サービスを選択でき、利用しやすくするために、住民目線による体験会や研究会を実施し、目に見える形で情報化する。
- ⑤住民アンケートやインフォーマル、生活支援サービスの社会資源情報を集積し、利用しやすく情報化するとともに、提供するためのツールを開発していく。

#### (3) 連携・協議の場

- ① 4 職種・所長との連携は包括会議、4 者会議などの会議で行う。また、日ごろから情報共有を密に行う。また、要支援の方のサービス提供内容の把握を実施するために、包括エリア内のケアマネジャーとの連携を行っていく。
- ② 青葉台連合自治会エリアでは地区社協との連携を深め、「青葉台地区支えあいネットワーク」が協議体に移行され、日常生活圏域でのボランティア活動の活性化を目指し、活動の場となる社会福祉施設や、グループの活性化を図り、生活支援の実際の担い手づくりを進めていく。
- ③ケアプラザエリアのコミュニティハウスや自治会館と連携し、活動状況の把握と協力体制づくりを行う。

#### (4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

住民アンケートやインフォーマル、生活支援サービスの社会資源情報を集積し、利用しやすく情報化するとともに、提供するためのツールを開発していく。

## 4 地域包括支援センター運営事業

### (1) 総合相談支援業務

#### ① 地域におけるネットワークの構築

- ① 包括エリアの民生児童委員とケアマネジャーの顔の見える関係づくりを行なうために、民生児童委員や、ケアマネジャー、サービス事業所を対象とした勉強会を開催し、顔の見える関係づくりを行なう。
- ② 青葉区主催の医療と介護連携「顔の見える場づくり会議」に出席し、包括エリアにとどまらず、青葉区内全体の包括的ケアマネジメントの構築やシステムづくりを行なう。また、個別のケースの相談を通して、医療機関のMSW、地域の開業医・青葉区在宅医療連携拠点との連携も構築していく。4か月に1回程度、地域の医院・クリニック、歯科医院、薬局等をまわり、地域包括支援センターの周知や地域の情報収集、連携づくりを行なう。
- ③ 地域ケア会議  
高齢者個人に対する支援の充実とそれを支える社会基盤の整備とを同時に進めていき、地域包括ケアシステムの実現を行なうことを目的として、概ね3ヶ月に1回程度、個別ケース地域ケア会議と包括エリア地域ケア会議を開催する。地域包括支援センターが主体となって開催準備から開催、振り返りまでを行っていく。  
地域の高齢者やご家族の支援のため各職種が、それぞれ専門性を発揮し協力しながら、その活動を通じて地域包括ケアシステムの構築と実現のために努力する。

#### ② 実態把握

支えあいネットワーク、地区社協、民児協連絡会、見守り連絡会等に、参加することで、地域の情報を知り、課題を共有し、状況把握をすすめる。随時個別訪問を行っていく。包括エリアの民生児童委員とケアマネジャーの顔の見える関係づくりを行なうために、民生児童委員や、ケアマネジャー、サービス事業所を対象とした勉強会を開催していく。要援護高齢者・障害者、要援護となるおそれのある高齢者・障害者又はその家族に対し、心身の健康の維持、増進や生活の安定、福祉、医療の向上などに必要な援助や助言を行う。

#### ③ 総合相談支援

- 地域の身近な相談窓口として、福祉保健にかかる個別相談を受けるとともに、各種関係機関と連携し、適切なサービスが提供できる体制を維持する。地域包括支援センター3職種が、それぞれの専門性を発揮しながら増加傾向にある総合相談に迅速に対応する。
- ① 介護に関することや介護予防としての健康情報、地域の医療情報を提供する。  
(介護保険申請手続き、介護保険サービス等の調整)
  - ② 行政サービスの相談、区への連絡調整。
  - ③ 高齢者の権利擁護、虐待防止等の相談。
  - ④ 地域のインフォーマルサービスの情報提供と利用調整。
  - ⑤ 地域高齢者の実態把握と地域特性やニーズの評価。
  - ⑥ 地域の福祉保健関係機関と連携し支援する。

## (2) 権利擁護業務

### ① 成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

#### ① 成年後見制度について

「成年後見サポートネットワーク」等を通し、各種専門職との連携を強化するとともに、地域住民への権利擁護に関する普及啓発を行なう。

青葉区版エンディングノートの普及の為、近隣の地域包括支援センターと共催して住民向けの講座を行う。専門職を講師として迎え、エンディングノートの正しい理解と普及を目的とした内容としていく。

#### ② 消費者被害について

青葉区は、神奈川県で消費者被害がワースト1であり、件数、被害金額ともに増加の一途をたどっている。

区役所、各種専門機関と連携し、多様な消費者被害に対応できるよう地域住民に対し、講座等を通じて啓蒙活動を行なう。

### ② 高齢者虐待への対応

認知症サポーター養成講座を年5回程度開催し、地域における認知症の正しい理解や対応の普及に努める。内3回は、若年層の認知症への理解を深めるため小中学生対象の講座とする。

また、実際に介護されている介護者向けに「介護者のつどい」を年10回開催する。(うち、施設見学会を1回開催)

介護者の心のケアを目的に支援していく。介護疲れから虐待に至るケースが増加傾向であり予防的な視点と、虐待の早期発見・介入が出来るような取り組みの1つとして開催していく。

### ③ 認知症

認知症サポーター養成講座を年4～5回開催し、地域における認知症の正しい理解や対応の普及に努める。内3回は、若年層の認知症への理解を深めるため小中学生対象の講座とする。

また、実際に介護されている介護者向けに「介護者のつどい」を年10回開催する。(うち、施設見学会を1回開催)

介護者の心のケアを目的に支援していく。介護疲れから虐待に至るケースが増加傾向であり予防的な視点と、虐待の早期発見・介入が出来るような取り組みの1つとして開催していく。

## (3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

### ① 地域住民、関係機関等との連携推進支援

包括エリアの民生児童委員とケアマネジャーの顔の見える関係づくりを行なうために、民生児童委員や、ケアマネジャー、サービス事業所を対象とした勉強会を開催し、顔の見える関係づくりを行なう。

ふれあい見守り連絡会へ出席し、民生児童委員、保健活動推進員、友愛活動員、地域で活躍するボランティア団体等が顔の見える関係を構築し、地域活動が円滑となるよう支援を行っていく。また、区の事業企画担当や区社会福祉協議会と連携し、ふれあい見守り連絡会の運営支援を行っていく。

## ②医療・介護の連携推進支援

医療と介護の連携は、地域包括ケアシステムを構築するうえでとても重要となる。包括的継続的ケアマネジメントの推進を基盤にシステムづくりを行なっていく。

個別のケースの相談を通して、医療機関のMSW、地域の開業医・青葉区在宅医療連携拠点との連携も構築していく。4か月に1回程度、地域の医院・クリニック、歯科医院、薬局等をまわり、地域包括支援センターの周知や地域の情報収集、連携づくりを行なっていく。

## ③ケアマネジャー支援

①包括エリア内で、活動するケアマネジャーのスキルアップや地域のネットワーク構築支援の為、勉強会や事例検討会を開催する。

②担当者会議に必要に応じて参加し、関係機関との調整や助言を行なう。

③支援困難事例の相談に対応し、各専門機関や地域の関係者の連携のもとで具体的な支援内容を検討し、助言を行なう。

④ケアマネジャーが支援困難と考えているケースについて地域ケア会議を開催する。個人が抱える課題を話し合うことで自立支援に資するケアマネジメントの支援を行なう。

⑤青葉区内主任ケアマネジャーが主催して、新任ケアマネジャーに対する研修・実習支援を行なう。

⑥地域の介護保険サービス事業所、インフォーマルサービス情報を収集し、適切に提供していく。

⑦横浜市日常生活総合支援事業を、円滑に行えるよう、地域のサービス事業所とケアマネジャーとが、より一層の連携がはかれるよう活動支援を行う。また、必要な情報を吟味し、情報提供していく。

## (4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

### 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

高齢者個人に対する支援の充実とそれを支える社会基盤の整備とを同時に進めていき、地域包括ケアシステムの実現を行なうことを目的として、概ね3ヶ月に1回の頻度の個別ケース地域ケア会議と包括エリア地域ケア会議の開催を行う。

協議体の開催につながるような意見交換となるよう、生活支援コーディネーターと準備から開催に至るまで連携する。

## (5) 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

### 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

#### ①事業対象者の把握

総合相談や介護予防普及事業、地域活動交流等と連携し、事業対象者の把握に努める。今年度も老人会や地域の活動に積極的に参加し、対象者の把握に努める。

事業対象者として、介護予防マネジメントを希望される方には、速やかに適確な情報提供を行い、アセスメントを行う。アセスメントの結果、介護予防マネジメントを実施する場合は、3職種で検討・情報共有を行いケアマネジメントが円滑に行えるよう支援する。

#### ②介護予防マネジメント

事業対象者・要支援者の主体性・意欲を引き出すような、目的志向型の包括的支援・介護予防ケアマネジメントを実施する。職場内研修も実施し、自立支援を軸にしたケアプランの作成が出来るように努める。予防プランを外部に委託する場合は、担当ケアマネジャーと連携し、適切なケアプラン作成を支援する。今年度も引き続き、区や区内地域包括支援センターと連携し、ケアマネジャーを対象に介護予防従事者研修を実施する。

## (6) 一般介護予防事業

### 一般介護予防事業

地域包括支援センターの保健師が中心となり、高齢者が身近な地域で介護予防を意識できるような具体的な取り組み（元気づくりステーション・介護予防普及強化事業など）を始めるきっかけとなる機会を提供する。ケアプラザの事業に参加しにくい地域には、地域に出向き、働きかけを行なう。また、地域交流や地域包括支援センターの他職種とも情報を共有し、地域の人材（元気づくりステーションのリーダーやボランティアなど）の発掘・育成にも努める。

アセスメントの結果から、口腔・運動機能の低下傾向がみられることから、口腔・ロコモティブシンドロームを中心とした「のびのびストレッチ」「コグニサイズ・脳活」などの介護予防教室をシリーズ化し、年10回程度開催していく。

さつき健康食堂などの栄養講座を年4回程度開催していく。

## その他

①地域の自治会や老人会、ボランティア活動などの集まりで地域包括支援センターの紹介や説明を行い、地域包括支援センターの周知に努める。

また、地域の薬局や医療機関へ定期的（年3回程度）に訪問し、地域包括支援センターのちらしを持参し、周知・理解・連携を深める。

②職員が専門性に関する研修に参加し、スキルアップを図る。

研修後は、復命書を作成し、伝達研修を行い、研修内容の共有を行う。

分科会への参加と部内会議（月1回）での情報共有を行う。

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との相違部分

### 施設の適正な管理について

#### ア 施設の維持管理について

基本協定書に基づき、指定管理者として適切な建物及び設備の維持管理を行う。開所から18年経過し耐用年数を超えたものなどか出始めている。施設を利用される方たちへの安全の確保は不可欠であり、専門業者による定期的な点検により設備を長持ちさせるように努めていく。

また、職員による日々の点検・清掃を行い屋内外の良好な環境を維持し、利用する方々が気持ちよく安全・安心・清潔な施設を利用していただけるように保守管理を行っていく。内部だけでなく、外から見ても不快感を与えることのないように、植木の手入れや雑草取り、落ち葉・枯葉の清掃もまめに行う。

#### イ 効率的な運営への取組について

法人の基本理念に則り、公益性・公共性を重視した運営と、地域包括ケアシステムの推進の為に、行政機関・医療機関・薬局・介護保険事業所などや自治会・地域住民・ご利用者及びその家族など関係者と連携をとり、質の高いサービスを提供していく。

ゴミ処理については、徹底したゴミの分別やりサイクルを行う。また、節電・節水など省エネに努め、ムリ・ムダ・ムラのない効率的な運営を行う。

業務については、見直しを効率の良い勤務体制を作っていく。また、ボランティアの発掘と育成については、支えあいネットワークと連携し、継続した活動ができるように協力や提言を行う。



#### ウ 苦情受付体制について

当法人作成の「苦情対応マニュアル」を基に、苦情相談窓口の文書を玄関に掲示し、その中に責任者名・担当者名・第三者委員名を明記するほか、横浜市の「ご意見ダイヤル」のポスターを貼り出すなど、意見が言いやすい環境づくりを心がける。

些細な苦情といえども、迅速で適切な対応を行い、誠意をもって対応するよう心がける。

介護保険事業については、重要事項説明書に担当者名を記載するとともに、区役所と神奈川県国民健康保険団体連合の所在地と電話番号を記載し、公的機関に対しても苦情申出等ができることを説明する。

ご意見箱を事務所から離れた所に設置することで、匿名希望の方からの意見も聞きやすい環境にする。

#### エ 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

当法人作成の「緊急時対応マニュアル」を基に、適切な対応を行う。

防犯対策として、夜間の時間帯は必ず2名の職員が勤務し、閉館時は警備会社による機械警備を行う。またパソコンにはすべてセキュリティーキーをつけ、盗難に備える。またパスワードの設定を徹底するなどの対策を怠らないようにする。

防災対策として、避難訓練を2か月に1回デイサービスの利用者に加え、貸館の利用者にも参加してもらい、火災の場合の避難や地震の時の対応などを行う。また、防災拠点や自治会の防災訓練にも積極的に参加する。特別避難場所に指定されている施設として、応急備蓄品の適正な管理を行い、緊急連絡網による連絡体制を徹底させる。

#### オ 事故防止への取組について

当法人作成の「事故対応マニュアル」の周知と研修の実施により、事故を起こさないよう常に注意を呼びかけ、また事故が起きてしまった場合には、速やかに対応し、青葉区役所や横浜市への報告も行う。

ヒヤリハットが起きた時には、全員の共通課題として取り組み、原因についての検証と今後の改善策を話し合う。

デイサービス送迎で使用する車両に、29年度末にドライブレコーダーを設置した。

この装置は、自動車保険会社が提供している装置で、日ごろの車輛運転状況も（急ハンドル、急加速、急減速といった項目で、ネット上でいつ、どこで、どの車が、何をしたといった情報を得ることが出来る。日頃事務連絡車として使用している軽自動車には設置していないが、運転状況報告を職員で共有し車輛安全運行にも、施設全体で取り組んでいく。

#### カ 個人情報保護の体制及び取組について

年度初めには、常勤・非常勤を問わず、職員全員に対し個人情報保護に関する研修を行い「個人情報保護に関する誓約書」に署名をもらい、横浜市長に提出する。中途採用の職員も同様に、その都度行うとともに、常に緊張感を持って個人情報に接するよう注意を促す。

法人としても法人内研修で個人情報保護に関する研修を行いケアプラザのみでなく法人として個人情報保護に心がけていく。

「個人情報取扱規程」の基づき、漏洩防止・保護に努める。

個人情報保護方針・個人情報問い合わせ担当者などを決めて、玄関に掲示する。

#### キ 情報公開への取組について

法人のホームページとブログを有効に活用するとともに、今年度より広報紙を毎月発行に切り替え、自治会へ回覧すると共にケアプラザ内での広報活動、区役所や青葉区社会福祉協議会に設置されているケアプラザ用チラシも活用し地域に情報提供を行っている。また、近隣の学校向け広報紙を作成し、年に数回学校に協力いただき、生徒への配布をお願いしている。子から親への情報提供に効果的に行っている。区報への情報掲載、横浜市や青葉区などの公的機関のホームページの活用や、介護サービス情報の公表を更新するなど、地域の多くの方にケアプラザを知っていただけよう広報活動に努める。

事業計画書・事業報告書・予算書・決算書などを、いつでも誰でも見られるようにファイルして、受付カウンターの横に置いておく。

一法人としてではなく、公的機関の一員であるという責任の重さを自覚して、情報公開の取り組みを行う。

#### ク 人権啓発への取組について

地域住民すべてが、住み慣れた地域社会において幸福な生活が営めるように人間として当然に持っている固有の権利を行使できるように支援していく。

ケアプラザが、地域住民へ啓発活動を続けていき、虐待や消費者被害などについて、包括カンファレンスや地域の老人会サロン等の場を活用し周知を行っていく。

今年度も、エンディングノートについても、専門職による地域住民向け講座を行っていく。

#### ケ 環境等への配慮及び取組について

節電・節水等を職員一人一人が心がけるようにする。

エアコンの設定温度は、夏は28度、冬は20度を目安にし、照明も明るさをそれほど必要としない場所の蛍光灯は数を間引くなど節電を実行する。また、館内に、節電を呼びかけるチラシを掲示し、利用者にも趣旨を理解していただき協力をお願いする。26年度に災害用の非常電源の確保事業で屋上に太陽光蓄電池が設置された。微量であるが非常用逐電装置からでた電気を動力系統で活用し、建物全体の電気量の軽減も役立てていく。

ごみの分別については、公共施設としてのゴミのルート回収に参加し、分別の徹底（紙類・燃やすごみ・金属・プラスチック・ペットボトル等21種類に分類）や減量化、リサイクルの促進に努める。ペットボトルのキャップやプリンターのカートリッジは回収ボックスへ、牛乳パック・空き缶・ペットボトルなどはデイサービスで行うゲームや工作の材料として使用するよう工夫する。

印刷物の裏紙は、積極的に所内容プリント用紙やメモ用紙として活用ゴミの軽減化に努める。

## 介護保険事業

### ● 指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業

#### 《職員体制》

##### 《職員体制》

管理者	1名（常勤 兼務）
保健師	1名（常勤 専従）
社会福祉士	1名（常勤 専従）
主任ケアマネジャー	1名（常勤 兼務）
プランナー	1名（非常勤 専従）

#### 《目標》

担当地域内に居住するよう支援1・2の認定を受けた利用者及び基本チェックリストによって事業対象者となった方に対し、可能な限り、住み慣れた地域で安心して生活が送れるようにするために必要な介護サービスが適切に提供できるように、利用者の選択に基づいた自立支援のための介護予防支援計画・介護予防マネジメント計画を作成する。  
また、地域のケアマネジャー事業所に委託予防プランを受託してもらうことにより、ケアマネジャーの支援を行なう。年1回程度介護予防従事者研修を行い、インフォーマルサービスも意識したケアプラン作成を学べる機会をつくり、スキルアップを目指していく。

#### 《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- 
- 
- 

#### 《その他（特徴的な取組、PR等）》

公正中立な立場で、ケアマネジメントを行っている。  
介護予防支援の委託先を、事業所一覧としてケアプラザ運営協議会（年1回）で報告し、地域住民への情報提供を行う。

#### 《利用者目標》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
115	115	115	115	115	115
10月	11月	12月	1月	2月	3月
115	115	115	115	115	115

● 居宅介護支援事業

《職員体制》

管理者	1名	(常勤兼務)	
介護支援専門員	6名	(常勤専従 3名)	(非常勤専従 3名)

《目標》

特定事業所加算Ⅱの事業所として、計画的な研修の実施および介護支援専門員1人ひとりの個別研修計画を作成し、ケアマネジメント技術を向上することにより、ご利用者とご家族が安心して自立した在宅生活を送る事ができるよう支援する。また、24時間の相談連絡体制を確保し、週1回のカンファレンスを行い、支援困難ケースについても積極的に受け入れていく。

- (1) 利用者の意思および人格を尊重し、常に利用者の立場に立ち、提供されるサービスが特定の種類・事業所に偏らないよう公正中立な立場で支援を行う。
- (2) 利用者の能力に応じ、自立した生活を維持するために適切なサービスが受けられるよう、心身の状況や環境、家族、介護者の希望を考慮し、要介護状態の悪化防止となるようなケアプランを作成する。
- (3) 利用者宅を定期的に訪問し、サービス内容についてモニタリングを行い、サービスの実施状況の把握、サービス調整の必要性について確認を行う。
- (4) 介護支援専門員実習受け入れの依頼を受けた場合は、地域包括支援センターと協力し積極的に受け入れる。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- 
- 
- 

《その他（特徴的な取組、PR等）》

地域包括支援センターを有する地域ケアプラザに所属する居宅介護支援事業所として、公正中立な立場でケアマネジメントを行うと共に、地域ケア会議等への参加と協力を行う。また、契約の有無にかかわらず広く相談を受け、介護保険に関する事項や横浜市の行政サービス、地域の社会資源などの情報提供を積極的に行う。

《利用者目標》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
147	147	147	147	147	147
10月	11月	12月	1月	2月	3月
147	147	147	147	147	147

● 通所介護・認知症対応型通所介護

《提供するサービス内容》

- 送迎
- 健康状態の観察
- 昼食・おやつ
- 生活指導・相談
- 入浴

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

	1割負担分	2割負担分	3割負担分
● (要介護1)	661円	1,322円	1,984円
(要介護2)	781円	1,562円	2,344円
(要介護3)	904円	1,809円	2,714円
(要介護4)	1,029円	2,058円	3,087円
(要介護5)	1,153円	2,306円	3,460円

別途

(入浴加算/サービス提供体制強化加算Ⅱ/個別機能訓練加算Ⅰ/処遇改善加算Ⅱ)

- 食費負担 750円

《事業実施日数》 週 6 日

《提供時間》 9:30 ~ 16:35

《職員体制》

管理者	1名（常勤兼務）
生活相談員	5名（常勤兼務）
看護師/機能訓練指導員	3名（常勤2名 非常勤1名）
介護職員	8名（常勤1名 非常勤7名）
調理員	4名（常勤4名）
運転手	4名（非常勤4名）

《目標》

多様化するニーズに応えるため、質の高いサービスを提供する。通所介護計画書に基づき、個人目標の実現、ADL・IADLの維持に向けたサービスを提供する。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

認知症対応の強化（認知症対応研修/認知症レクリエーション/認知症ケア専門士の起用）

《利用者目標（延べ人数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
710	710	710	710	710	750
10月	11月	12月	1月	2月	3月
750	750	750	750	750	750

● 介護予防通所介護・第1号通所事業・介護予防認知症対応型通所介護

《提供するサービス内容》

- 送迎                      ●健康状態の観察
- 昼食・おやつ        ●生活指導・相談
- 入浴

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

- 1割負担分割負担分                      2割負担金
- （事業対象者）        1,766円/週1回        3,513円/週1回
- （事業対象者）        3,621円/週2回        7,241円/週2回
- （要支援1）            1,766円/月            3,513円/月
- （要支援2）            3,621円/月            7,241円/月
- 別途（運動器機能向上加算/サービス提供体制強化加算1.2）

- 食費負担                      750円

《事業実施日数》 週 6 日

《提供時間》 9:30 ~ 16:35

《職員体制》

- 管理者                                      1名（常勤兼務）
- 生活相談員                                5名（常勤兼務）
- 看護師/機能訓練指導員                3名（常勤2名 非常勤1名）
- 介護職員                                    8名（常勤1名 非常勤7名）
- 調理員                                      4名（常勤4名）
- 運転手                                      4名（非常勤4名）

《目標》

多様化するニーズに応えるため、質の高いサービスを提供する。通所介護計画書に基づき、個人目標の実現、ADL・IADLの維持に向けたサービスを提供する。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

レクリエーションの多様化/運動機能向上に向けたサービスの強化

《利用者目標（契約者数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
10	10	10	10	10	10
10月	11月	12月	1月	2月	3月
10	10	10	10	10	10

平成30年度「横浜市さつきが丘地域ケアプラザ」  
収支予算書及び報告書(一般会計)＜地域活動＞

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	14,160,022		14,160,022	14,160,022	0	横浜市より
利用料金収入			0	0	0	この列は入力しない
指定管理料充当 事業	0		0	0	0	
自主事業収入			0	0	0	この列は入力しない
雑入	0		0	0	0	
印刷代	0		0	0	0	
自動販売機手数料			0	0	0	この列は入力しない
駐車場利用料金収入			0	0	0	この列は入力しない
その他(指定管理料充当)			0	0	0	
その他(施設使用料相当額 法人負担分)	3,990,000		3,990,000	3,990,000	0	
その他(提案時控除 法人負担分)			0	0	0	
収入合計	18,150,022	0	18,150,022	18,150,022	0	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	9,929,133	0	9,929,133	0	9,929,133	
本俸	7,120,849		7,120,849	0	7,120,849	
社会保険料	615,282		615,282	0	615,282	
手当計	2,116,682		2,116,682	0	2,116,682	
健康診断費			0	0	0	
勤労者福祉共済掛金			0	0	0	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額	76,320		76,320	0	76,320	
その他			0	0	0	
事務費	1,802,832	0	1,802,832	0	1,802,832	
旅費	127,337		127,337	0	127,337	
消耗品費	359,280		359,280	0	359,280	
会議随費			0	0	0	
印刷製本費	156,966		156,966	0	156,966	
通信費	233,376		233,376	0	233,376	
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
横浜市への支払分			0	0	0	
その他			0	0	0	
備品購入費	182,145		182,145	0	182,145	
図書購入費			0	0	0	
施設賠償責任保険	49,141		49,141	0	49,141	
職員等研修費	23,432		23,432	0	23,432	
振込手数料			0	0	0	
リース料	334,596		334,596	0	334,596	
手数料	3,342		3,342	0	3,342	
地域協力費			0	0	0	
その他	333,217		333,217	0	333,217	
事業費	42,000	0	42,000	0	42,000	
運営協議会経費	42,000		42,000	0	42,000	予算：指定額
指定管理料充当 事業			0	0	0	
管理費	3,203,164	0	3,203,164	0	3,203,164	
建築物・建築設備点検			0	0	0	予算：指定額
光熱水費	0	0	0	0	0	
電気料金			0	0	0	
ガス料金			0	0	0	
水道料金			0	0	0	
清掃費	969,920		969,920	0	969,920	
修繕費	474,000		474,000	0	474,000	予算：指定額
機械整備費	41,009		41,009	0	41,009	
設備保全費	811,030	0	811,030	0	811,030	
空調衛生設備保守	536,083		536,083	0	536,083	
消防設備保守	38,224		38,224	0	38,224	
電気設備保守	74,272		74,272	0	74,272	
害虫駆除清掃保守	35,358		35,358	0	35,358	
駐車場設備保全費			0	0	0	
その他保全費	127,093		127,093	0	127,093	
共益費			0	0	0	
その他	907,205		907,205	0	907,205	
公租公課	668,320	0	668,320	0	668,320	
事業所税			0	0	0	この列は入力しない
消費税	668,320		668,320	0	668,320	
印紙税			0	0	0	この列は入力しない
その他( )			0	0	0	この列は入力しない
事務経費 (計算根拠を説明欄に記載)	0	0	0	0	0	この列は入力しない
本部分			0	0	0	この列は入力しない
当該施設分			0	0	0	この列は入力しない
ニーズ対応費			0	0	0	この列は入力しない
支出合計	15,645,449	0	15,645,449	0	15,645,449	
差引	2,504,573	0	2,504,573	18,150,022	△ 15,645,449	

自主事業費収入	0		0	0	0	
自主事業費支出	0		0	0	0	
自主事業収支	0	0	0	0	0	→自主事業(指定管理料充当の自主事業)費

管理許可・目的外使用許可収入	0		0	0	0	駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出	0		0	0	0	使用料(横浜市への支払等)
管理許可・目的外使用許可収支	0		0	0	0	

平成30年度「横浜市さつきが丘地域ケアプラザ」  
収支予算書及び報告書(特別会計)

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料(包括)	23,336,000		23,336,000		23,336,000	横浜市より
指定管理料(介護予防)	151,000		151,000		151,000	横浜市より
指定管理料(生活支援)	5,789,000		5,789,000		5,789,000	横浜市より
利用料金収入			0		0	この列は入力しない
指定管理料充当事業(包括)	0		0		0	
指定管理料充当事業(介護予防)	0		0		0	
指定管理料充当事業(生活支援)	0		0		0	
自主事業収入			0		0	この列は入力しない
雑入	0	0	0	0	0	
印刷代	0		0		0	
自動販売機手数料	0		0		0	
駐車場利用料金収入	0		0		0	
その他(指定管理充当分)	0		0		0	
その他(提案時控除 法人負担分)			0		0	
<b>収入合計</b>	<b>29,276,000</b>	<b>0</b>	<b>29,276,000</b>	<b>0</b>	<b>29,276,000</b>	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	22,831,931	0	22,831,931	0	22,831,931	
本俸	11,703,483		11,703,483		11,703,483	
社会保険料	2,912,506		2,912,506		2,912,506	
手当計	7,863,492		7,863,492		7,863,492	
健康診断費			0		0	
勤労者福祉共済掛金			0		0	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額	352,450		352,450		352,450	
その他			0		0	
事務費	2,341,297	0	2,341,297	0	2,341,297	
旅費	111,682		111,682		111,682	
消耗品費	197,173		197,173		197,173	
会議随費			0		0	
印刷製本費	711,194		711,194		711,194	
通信費	395,489		395,489		395,489	
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
横浜市への支払分	0		0		0	
その他	0		0		0	
備品購入費			0		0	
図書購入費			0		0	
施設賠償責任保険			0		0	
職員等研修費	92,962		92,962		92,962	
振込手数料			0		0	
リース料	528,456		528,456		528,456	
手数料	12,485		12,485		12,485	
地域協力費			0		0	
その他	291,856		291,856		291,856	
事業費	1,113,165	0	1,113,165	0	1,113,165	
協力医	630,000		630,000		630,000	予算:指定額
指定管理料充当自主事業(包括)	23,165		23,165		23,165	
指定管理料充当自主事業(介護予防)	151,000		151,000		151,000	
指定管理料充当自主事業(生活支援)	309,000		309,000		309,000	予算:指定額
管理費	851,466	0	851,466	0	851,466	
建築物・建築設備点検			0		0	予算:指定額
光熱水費	0	0	0	0	0	
電気料金			0		0	
ガス料金			0		0	
水道料金			0		0	
清掃費	257,825		257,825		257,825	
修繕費	126,000		126,000		126,000	予算:指定額
機械警備費	10,900		10,900		10,900	
設備保全費	215,587	0	215,587	0	215,587	
空調衛生設備保守	142,503		142,503		142,503	
消防設備保守	10,160		10,160		10,160	
電気設備保守	19,742		19,742		19,742	
害虫駆除清掃保守	9,398		9,398		9,398	
駐車場設備保全費			0		0	
その他保全費	33,784		33,784		33,784	
共益費			0		0	
その他	241,154		241,154		241,154	
公租公課	0	0	0	0	0	
事業所税			0		0	
消費税	0		0		0	
印紙税			0		0	
その他( )			0		0	この列は入力しない
事務経費(計算根拠を説明欄に記)	0	0	0	0	0	
本部分			0		0	
当該施設分			0		0	
二一ス対応費			0		0	
<b>支出合計</b>	<b>27,137,859</b>	<b>0</b>	<b>27,137,859</b>	<b>0</b>	<b>27,137,859</b>	
差引	2,138,141	0	2,138,141	0	2,138,141	

自主事業費収入	0					
自主事業費支出	0					
自主事業収支	0			0		⇒自主事業(指定管理料充当の自主事業)費
管理許可・目的外使用許可収入				0		駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出				0		使用料(横浜市への支払等)、駐車場設備保全費
管理許可・目的外使用許可収支				0		



# 平成30年度 自主事業収支計画書

## 横浜市さつきが丘地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者 ②募集人数 ③一人当たり参加費	総経費	自主事業予算額						
			収入			支出			
			指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
お食事会①②	高齢者	210,000	地活	0	210,000	0	0	210,000	0
	70		包括						
	500		生活						
介護者の集い	地域住民	12,000	地活	12,000	0	0	0	0	12,000
	5~20名		包括						
	0		生活						
はなみずき	高齢者	120,000	地活	120,000	0	0	0	120,000	0
	20		包括						
	500		生活						
古典文学の会	地域住民	14,000	地活	14,000	14,000	0	0	14,000	0
	25		包括						
	14,000		生活						
手先イキイキ講座	地域住民	36,800	地活	0	36,800	0	0	36,800	0
	30		包括						
	1,200		生活						
フラワーアレンジメント	地域住民	120,000	地活	120,000	120,000	0	0	120,000	0
	30		包括						
	4,000		生活						
さつきシニア劇団	地域住民	51,137	地活	11,137	40,000	0	11,137	40,000	0
	20		包括						
	4,000		生活						
さつき食堂	地域住民	19,137	地活	11,137	18,000	0	11,137	18,000	0
	30		包括						
	600		生活						
背骨親子リラックス	地域在住の親子	24,682	地活	0	18,000	6,682	6,682	18,000	0
	10		包括						
	1,800		生活						
絵本読み語り	地域住民	16,137	地活	16,137	5,000	0	11,137	5,000	0
	10		包括						
	500		生活						
フレッシュハーブ	地域住民	31,137	地活	0	20,000	0	11,137	20,000	0
	20		包括						
	1,000		生活						
かるがもランチ	地域在住の親子	15,341	地活	0	12,000	0	3,341	12,000	0
	24		包括						
	500		生活						
布ぞうり	地域住民	18,000	地活	0	18,000	0	0	18,000	0
	14		包括						
	1,500		生活						
和菓子講座	地域住民	26,137	地活	0	15,000	0	11,137	15,000	0
	15		包括						
	1,000		生活						
干支人形	地域住民	13,027	地活	0	10,800	0	2,227	10,800	0
	10		包括						
	10,800		生活						
こそで会	地域住民	26,682	地活	0	20,000	6,682	6,682	20,000	0
	40		包括						
	500		生活						
運協お食事会	地域住民	20,000	地活	0	20,000	0	0	20,000	0
	40		包括						
	500		生活						
さつきリミック	地域の親子	26,137	地活	11,137	15,000	0	11,137	15,000	0
	15		包括						
	500		生活						
歌の会	地域住民	6,000	地活		6,000	0	0	6,000	0
	60		包括						
	100		生活	0					
さつまいも体験会	地域住民	40,000	地活	0	40,000	0	0	40,000	0
	60		包括						
	40,000		生活						
四季のコンサート	地域住民	31,137	地活	11,137	20,000	0	11,137	20,000	0
	50		包括						
	40,000		生活						
秋祭り	地域住民	450,000	地活	450,000	450,000	0	0	450,000	0
	400		包括						
	450,000		生活						
日赤救急法講座	地域住民	40,000	地活	40,000	40,000	0	0	40,000	0
	20		包括						
	40,000		生活						
Bambi English	地域住民(子ども)	25,000	地活						
	10		包括						
	2,500		生活						
びっくり科学実験教室	地域住民(小学生)	13,254	地活	4,454	8,800	0	4,454	8,800	0
	22		包括						
	400		生活						

## 平成30年度 自主事業収支計画書

ベビーマッサージ	地域住民	58,454	地活	4,454	54,000	0	4,454	54,000	0
	59		包括						
	1,000		生活						
TABI友の会	地域住民	16,137	地活	11,137	15,000	0	11,137	15,000	0
	30		包括						
	500		生活						
M'sキッチン	地域住民	10,000	地活	0	10,000	0	0	10,000	0
	20		包括						
	500		生活						
薬膳料理講座	地域住民	41,137	地活	11,137	30,000	0	11,137	30,000	0
	10		包括						
	20,000		生活						

### 横浜市さつきが丘地域ケアプラザ

資料4-2

事業名	①募集対象者 ②募集人数 ③一人当たり参加費	総経費	自主事業予算額						
			収入				支出		
			指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
朝活体操	地域住民	24,000	地活	11,137	24,000	0	11,137	24,000	0
	20		包括						
	100		生活						
ひまわりヨガ	地域住民	10,000	地活	0	10,000	0	0	10,000	0
	20		包括						
	500		生活						
絵手紙	地域住民	5,000	地活	0	5,000	0	0	5,000	0
	10		包括						
	500		生活						
手作りパン	地域住民	30,274	地活	11,137	18,000	0	11,137	18,000	0
	30		包括						
	800		生活						
クレークルスと遊ぼう	地域在住の親子	13,341	地活	3,341	10,000	0	3,341	10,000	0
	50		包括						
	200		生活						
ベビーマッサージ	地域住民	41,137	地活	11,137	30,000	0	11,137	30,000	0
	30		包括						
	1,000		生活						
モール小物	地域住民	27,341	地活	3,341	24,800	0	3,341	24,800	0
	30		包括						
	800		生活						
絵本コンサート	地域住民	4,000	地活	0	4,000	0	0	4,000	0
	20		包括						
	200		生活						
放課後支援	地域の小学生	21,137	地活	11,137	10,000	0	11,137	10,000	0
	20		包括						
	500		生活						
認知症カフェ	地域住民(高齢者)	71,137	地活		60,000	0	11,137	60,000	
	20		包括	11,137					
	300		生活						
地域医療連携講座	地域住民	5,000	地活	5,000	0	0	0	0	5,000
	1,000		包括	0					
	0		生活						
親子体操	地域住民	4,454	地活	4,454	0	0	4,454	0	0
	30		包括						
	0		生活						
にこにこ茶話会	地域住民(高齢者)	10,000	地活	5,000	0	0	0	5,000	0
	90		包括	5,000				5,000	0
	0		生活						

194,894

# 平成30年度 自主事業計画書

## 横浜市さつきが丘地域ケアプラザ 地域交流

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
介護者のつどい	主に在宅介護介護者の交流、情報交換ができるようにする。介護者が抱え込んでいる悩みや疑問を皆で共有してリフレッシュできる雰囲気茶話会形式で目指す。	基本月1回（8月、1月休会）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
さつき盆踊りの会	盆踊りを通じて、健康維持と仲間づくりを図る	基本月1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
にこにこ茶話会	地域の高齢者を対象。介護予防、外出のきっかけを作り、見守りを目的に開催。月替わりのレクリエーションを企画して、参加者同士の交流をはかり参加中にヒアリングや様子をうかがう。	基本月1回（8月、10月休会）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
食事会①②	高齢者の引きこもり防止と見守り。参加者同士やボランティアの男性グループいきいきセミナー修了生「1期生：粋々クラブ」、「2期生：いきいきクラブ」との交流を目的として昼食を提供。	奇数月第2・第3水曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
はじめの一步	車いす誘導やお話相手のボランティアについて講義しし、仲間づくりを行って地域のボランティアを担う人材を育成する。	月1回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
みんなの麻雀	介護予防のための健康麻雀を地域住民が楽しむ居場所の提供。	毎月1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
健康体操①②	身体機能の維持や改善を目的とする健康体操。運動不足の解消や定期的に仲間と交流することで介護予防の効果を期待する	毎月第1.2.3月曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
地域のシニアの居場所づくり	各地区ごとに、民生委員が中心となって、在宅介護者や独居老人のコミュニケーション作り。茶話会形式で行い見守りもかねる。「おしゃべりサロン」「高砂会」「カエデの会」	各団体 月1回

# 平成30年度 自主事業計画書

## 横浜市さつきが丘地域ケアプラザ

事業名	目的・内容	実施時期・回数
子育てわいわ広場	子育てに関する相談や情報提供、交流の場を提供することで、育児不安の解消を図る。また他人に任せ育児疲れを解消できる時間を提供する。第3水曜日は読み語り、ピアノと音楽のボランティアが来館し情操を養っていく。民生委員さんが毎回参加することで、親子の見守り、専門機関との連携につなげる。地域のボランティアが参加し異世代交流とをする。	毎月3～4回実施

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
日本文化伝承プログラム	茶道、和菓子、着付け、落語を伝承するグループを育成し、自主化。ケアプラザと協働し子どもからおとなまでが参加できる講座や居場所の提供を行っていく。	各団体月1回程度

事業名	目的・内容	実施時期・回数
放課後支援プログラム	園や学校の終業後に参加型のプログラムを取り入れ、子どもの見守りを行う。英語教育、学習支援、音楽教育、読書習慣、ダンス、体操、ヨガなど。子ども食堂実行委員の希望により各プログラムを提供していく。	各団体概ね週1～2回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
初心者麻雀30	引きこもり防止、脳の活性化で認知症予防につなげる。参加者同士の交流。講師ボランティア育成と活躍の場の提供も目的とする。未経験者を募り、2年毎に卒業し、任意で自主化をしてコミュニティーを拡げる。	毎月2回 2年間で卒業

事業名	目的・内容	実施時期・回数
いきいきセミナー修了生 1～5期生との協働	定年退職した男性が地域の仲間づくり、生きがい探しやボランティア活動を行う。調理実習や健康体操、施設見学など屋外活動も行う。主に食事会開催、麻雀講師、デイサービスボランティア、地域の祭りの手伝い、子育て支援のボランティアに参加。運営委員会会員向けの食事会にも協力している。	毎月2回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
布遊びの会	ランチ持参で布小物から着物リメイクまでを自主性に任せて活動する。シニアの居場所と仲間づくり。	毎月1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
未就園、未就学前の親子の居場所づくり	ケアプラザの周知、地域の親子のコミュニケーション作り、居場所づくり見守りなどを目的に、親子体操、親子食育講座（ヘルスマイト含む）、絵本の読み語り、歌や楽器のコンサート、区の歯磨き指導（ニコピカ歯磨き）を年間通して継続を意識しながら展開していく。活動に関わるボランティアの育成も同時に行っていく。	週1回からの活動から年1回7からの活動と団体に応じて通年で展開していく。

事業名	目的・内容	実施時期・回数
余暇支援プログラム	春・夏・冬期。休みの子どもの見守りを兼ねた、参加型プログラム。子ども食堂、科学実験教室、学習支援、※太鼓作りと参加型コンサート（フィリアホール共催）など	季節ごとに数回

# 平成30年度 自主事業計画書

## 横浜市さつきが丘地域ケアプラザ

事業名	目的・内容	実施時期・回数
認知症サポーター養成講座	(包括協働) さつきが丘小学校(4年生)、つつじが丘小学校(6年生)、谷本中学校(福祉部)、その他地域向けに認知症についての正しい知識の啓蒙を行う。	年間3~4回
事業名	目的・内容	実施時期・回数
がんばるんばさつき組	谷本中学校児童向けに中間・期末試験の前にプラザの貸館の空いた時間を自習スペースとして活用する。	年間6回(1期間5回位)
事業名	目的・内容	実施時期・回数
いきいき手先講座	各種製作を通じ細かい手先の運動から脳の活性化をはかり、認知症の予防につなげる。また、仲間との交流を目的とする。(中国紐、ビース、吊るしびななど)	毎月2回~3回
事業名	目的・内容	実施時期・回数
バンビイングリッシュ	地域の子どもたちの繋がりや英語に親しむことが目的。小学校低学年向けに開催。アルファベットや単語の習得。簡単なロールプレイでコミュニケーションを図る。英検5級からの試験対策も希望があれば対応していく。	毎月2~3回
はなみづき	独居で支援や見守りが必要な地域の高齢者へ手作り弁当を届けることで見守り活動を行う配食サービス。作り手のボランティアのいきがいくつくりと、担い手の発掘育成で地域の活性化をはかる。仲間づくりと、やりがい作り。	毎月1回
事業名	目的・内容	実施時期・回数
さつきシニア劇団	地域の異世代、男女問わず集まって、地域にパフォーマンスを発信していく。平成30年度は講師をまねいて基礎講座を開催し、地域包括支援センター主催の権利擁護講座の寸劇を共演し地域へ様々な啓蒙活動を展開する。	月1回
事業名	目的・内容	実施時期・回数
秋祭り	地域住民とボランティア、地域ケアプラザとがともに準備をすすめながら、地域住民やボランティアと交流し、絆を深める。地域に向けてケアプラザを周知する。小中学校、自治会との懇親。	年1回
事業名	目的・内容	実施時期・回数
さつきパソコンクラブ	地域活動で必要な書類を作成するときに気軽に習える地域のPC講座。主にワード、エクセルを中心に進める。生きがいくつくりや仲間づくりも目的のひとつ。ボランティア活動で地域新聞、子育て新聞などの紙面入力の手助けをしていただけ。	概ね土、日いずれか毎月2回
事業名	目的・内容	実施時期・回数
古典文学を楽しもう	「枕草子」を中心に読み進めている。平成30年度は「平家物語」も始める。歴史背景、人物像に迫り、音読の機会も作り、声を出す機会もつくる。生きがいくつくり、仲間づくり、認知症予防。	概ね毎月3回

# 平成30年度 自主事業計画書

## 横浜市さつきが丘地域ケアプラザ

事業名	目的・内容	実施時期・回数
メイプルキッチン	梅が丘の民生委員が主体。平成29年度から高齢者の元気づくりを目標に支える側の人材の育成を行った。シニアの居場所、食育、健康をテーマに継続活動おこなっていく。食前に地域包括支援センターからの啓蒙や介護予防の体操なども取り入れていく。	月1回
きれいヨガ	開講時間を夜間帯に設定。夜間帯の有効利用を狙いとして開講。内容を少しハードに設定し、若年層～壮年の取り込み、仕事かえり方のリフレッシュも狙いとする。新しい人材の発掘、地域の担い手育成につなげる意向も有。	毎月2回
母親世代～高齢者向け食育・料理講座	専門講師やヘルスマイトとの共催で、すでにある男性調理グループや配食サービス高齢者ボランティアも含めて地域に食育や調理の輪を広げる。	年間2～3回
親子リラックス	未就園時をもつ親子の居場所づくり。親子のコミュニケーションが円滑に運ぶようにプログラムを組み、自分たちのペースで体を動かす。母親の日頃の体にたまった疲れを取り除くストレッチも取り入れる。仲間づくりと健康増進。育児ストレス発散。	前期4回 後期から月1～2回
親子体操	保健活動推進員の活動周知と活躍の場の提供を目的にケアプラザと共催。企画から当日の見守りを保健活動推進員行う。	年1回
ハッピードロップ（読み語り講座）	講師を招いて自主事業活動団体や地域で読み語りに興味がある人材に基礎から講習を行う。地域で子どもからおとなまでのボランティア活動へとつないでいく。	月2回
ハーブと生活講座	植物療法士の講師を招いて、フレッシュハーブ、ドライハーブの上手な育て方、使い方を学ぶ。高齢者と子育て世代向けに開講し、調理をする団体には実際に栽培し調理に活用してみる。子育て世代は親子でリラックスできる空間を提供して、仲間づくりや子育てとハーブについての知識の啓蒙とストレス発散につながる活動とする。	年間2回
医療連携講座	長津田総合厚生病院の医師や協力医と連携して、テーマを設定の上健康に関する講座を開設。質疑応答や茶話会形式も取り入れて地域の見えないニーズや問題の掘り起こしにもつなげる。ケアプラザの事業への理解や活動の周知も目的とする。	年間2回
さつきリトミック	1歳～5歳までを対象に専門家から音楽の基礎を学ぶ。地域の子どもと親子のコミュニケーション。	月2回
区社協連携講座	日本赤十字社の講師を招いて、生活に役立つ単発講座、地域に必要な人材を育成し根付かせることも目的とした、救命法などの資格がとてる講座を開設し、地域の基盤強化、新しい人材の発掘を狙う。	年1回～2回

# 平成30年度 自主事業計画書

## 横浜市さつきが丘地域ケアプラザ

包括支援センターとの連携講座	元気づくりステーション継続講座フォローアップ、新規立ち上げ時やさつき食堂、近隣小中学校や地域向けの講座、認知症カフェ運営などへの協働。	各企画通年
障がい児者支援活動	支援を必要とする地域住民にケアプラザの周知や制度を周知し、早期に支援に結びつくような切っ掛けをつくる。青葉区障がい者後見的支援室「ほっぷ」と協働で、地域向けの講座を開催する。その他障がい児者当事者や家族が参加できる活動をケアプラザで行う。	年1～2回
地区社協と共催青葉台地区連合のハロウィン企画	地域の方に地区社協の活動を周知する。企画を通して青葉台CP、さつきが丘CPを地域の方に知っていただく機会とする。地域住民同士のコミュニケーション。商店街との協働。	年1回
さつまいも植え付け、収穫体験会	エリアの畑をかりて、紅あずまを植え付け、観察、収穫し最後に食べながら交流する。子どもからおとな迄農業体験。特に子どもに作物が育つことに興味を抱かせ、植物の成長を観察。収穫の喜びを体験させる。最後に調理し食育につなげる活動にする。	年1回
季節のコンサート	四季折々に地域で活躍中の団体を招いて多世代向けの催しを数回開催する。平成30年度は七夕コンサートを開催。午前は子どもと親子のためのコンサート、午後は地域のソリストを招いて最後に笹飾りをするなど。	年2回～4回
事業名	目的・内容等	実施時期・回数
こころのベンチ	傾聴ボランティアを目指す活動団体の育成	年4回
事業名	目的・内容等	実施時期・回数
Green's Baby さつき	助産師を招いてベビーマッサージと母乳育児のアドバイス。その他産後の骨盤体操を行う。育児の悩みをヒアリングして、困難なケースは専門を通して区につなぐ。	年9～10回
事業名	目的・内容等	実施時期・回数
科子ども科学教室「くじら」講座	恩田地域ケアプラザで立ち上げた子供に科学を伝承する会が地域に向けて講座を開きたいという目的で、当ケアプラザでも夏の余暇支援として開講する。	年1回
事業名	目的・内容等	実施時期・回数
さつき子ども食堂	あおば子ども食堂実行委員会との協働でケアプラザを貸す。地域の子どもたちと一緒に育み、潜在しているニーズを迅速に対応できる仕組み作りを行う。	週2回